

2017年度国際版画美術館事業報告書【講座・イベント版】

プログラム名	2017年度学校連携事業 町田市立堺中学校「復刻浮世絵摺り体験」				
講師等	当館学芸員(上村、齋藤)	担当者名	齋藤美穂子		
開催日・時間	2017年6月6日(火) 8時45分～14時10分(1クラス50分×5クラス)	場所	町田市立堺中学校		
参加者数	実績			市民率	
	2年生 5クラス 185名、さくら学級(特別支援学級)8名			100%	
事業概要	美術の授業で「木版画」を学ぶ2年生を対象に、当館所有の復刻浮世絵版木※及び、道具を使って浮世絵の「摺り」を体験し、摺りの道具、摺り師の技について学ぶ。「彫り」の部分は事前学習として、当館で作成したビデオ「歌麿再現—現代に生きる錦絵の技」の「彫り」の部分を鑑賞し、道具、彫師の技について学ぶ。 ※復刻浮世絵版木：気軽に浮世絵の摺り体験が行えるよう、墨版1枚だけで絵柄が摺れるように制作された版木。				
ねらい・対象	実技指導	展覧会関連	学校連携	友の会連携	その他
	復刻浮世絵版木を使用した摺り体験を通して日本の伝統技術である浮世絵版画に興味を持ってもらう。また、浮世絵の制作について説明だけでなく、実際に使用する道具に触れることで「絵師」「彫り師」「摺り師」のそれぞれの奥深い仕事を理解してもらう。学校に出張して授業を行うことで、美術館に来館したことのない生徒に当館について知ってもらう機会とした。				
美術館で用意したものの。	★事前学習 当館制作のビデオ「歌麿再現—現代に生きる錦絵の技」(貸出)：指導は榊原教諭 ★摺り体験 ①復刻浮世絵版木 ・体験用(摺るもの) 三代目歌川豊国・歌川広重「双筆 五十三次 宮」 歌川広重「富士三十六景 駿河薩タ之海上」 月岡芳年「和漢百物語」宮本無三四 ・鑑賞用(触るもの) 喜多川歌麿「当時三美人」 ②摺り体験道具 ・べたばれん(摺り用3枚)・ばれん綿・摺り台(低いタイプ)・マットフィルム(あて紙) ・やまとのり(溶いたもの)・木製マドラー ・はこび・手刷毛(小)・水刷毛・茶碗・絵皿 ・開明墨汁(練り墨を入れて調整したもの)・霧吹き・ウエス・雑巾 ・ぬれ新聞(1/2サイズ)版木1枚につき2枚(下に敷く+上にかぶせる) ③鑑賞用の資料 ・中身を見ることができるパレン・復刻浮世絵のオリジナル(カラー印刷) ・サクラ、カツラ、ホオ、木口の版木他 浮世絵資料				
学校で用意していただいたもの	実物投影機、和紙(新鳥の子)、ワークシート(版画美術館より資料提供)				
協力	町田市中学校教育研究会 美術部				
事業の振り返り	実施のきっかけ	当館で開催する中学校美術作品展にて来館した教員や、学校対応講座など来館する教員に連携事業の可能性について数年にわたり聞きとり調査をしてきた。2017年2月に中学校教育研究会 美術部会において、教員と美術館で意見交換を行った。今回の連携事業の実施は、その意見交換から発展し、実施することができた。			
	準備について	事業の決定から、実施まで2ヶ月という短い準備期間であった。教員との打合せ、調整期間を考慮すると3ヶ月程の時間があれば更によかった。美術館で用意したものは、鑑賞用のサクラ、カツラの版木以外在庫で対応した。			
	搬入について	実施日が火曜日であったため、荷物を搬入したのが前の週の金曜日だった。(土、日曜日は学校が開いておらず、月曜日は美術館が休館のため。)結果、道具を長い期間置かせてもらう事となった。また、復刻浮世絵版木については、当日学芸員2名が手持ちで搬入した。1時間目(午前8時45分)の授業に間に合わせるため、午前6時に美術館に集合するというスケジュールになった。次回からは、勤務時間内に完結できるように計画したい。			
	当日の準備について	8時に会場に到着し、45分で版木の準備、投影機材の設置などを行った。事前に大まかな会場の設営を教諭に依頼したため、スムーズに行うことができた。			
	体験授業の進行	50分の授業で1クラスおよそ40名弱に対応をした。導入5分、説明5分の後、摺り体験をする班、道具などの資料の説明を聞く班それぞれ15分で交代制とした、その後、ワークシートに感想を書いてもらった。体験に時間を割くため、説明はかなり簡略したものとなった。全クラス、全員が時間内に摺り体験を行うことができたが、感想を書く時間が短くなってしまった。18名を15分で体験させるのは時間的にギリギリだった。もう5分時間を取った方が余裕が持てた。そのためには、対応する生徒数を少なくする、人員を増やす、または工程を削る等検討が必要である。			
	人員について	15時に片付けが終了し、当館の庁用車で搬出を行った。当日、急な庁用車の利用があり学校への到着が1時間ほど遅れ、16時まで学校にて待機させてもらった。			
総括	摺り体験(学芸員1名、堺中学校 教員1名)、資料説明(学芸員1名)。搬入搬出(美術館職員2名)で行った。教員には事前に当館で摺り体験の実演方法を習得してもらい、生徒指導にあたってもらった。今後も出張授業を行うには、人員の確保が必要となる。学校に協力をしてもらい補佐をつけてもらう、非常勤職員を1名つける、ボランティアを募るなど行い易くする方法を検討したい。				
総括	当館の所有する文化的資源を学校教育に活用できないかと、数年にわたり美術館より美術担当教員に提案していた。その中で美術館に来て授業を行うには「生徒の引率」がネックであるということも分かった。学芸員が学校に出向出張授業では、生徒を引率する必要がない。今回の事業は試行的ながら、193名という多くの生徒に当館の復刻浮世絵版木を通し、日本の伝統文化である浮世絵について学んでもらえることができた。また授業をきっかけとして、町田市にある国際版画美術館についても周知することができた。一方で、実施に当たる学芸員の集合が午前6時であったこと。休まず体験授業を繰り返すため、版を調整する時間、道具の状態を確認する時間が不足するなど反省点もあった。今後の実施にあたっては内容の見直しも必要である。また、学校の協力が必要不可欠であると感じた。今回の事例をもとに引き続き学校教育の中で美術館を活用してもらうために更なる検討と働きかけが必要である。				

復刻浮世絵摺り体験の様子



①導入: 堺中学校 榑原教諭
本日の進行と版画美術館の復刻浮世絵版木についての説明。



②説明: 当館学芸員 齋藤
復刻浮世絵の摺り方と、それに使用する道具の説明。



③摺り体験: 当館学芸員 齋藤
復刻浮世絵版木を3種類を使用しました。
どの班がどの版木を摺るかは、事前に授業内で決めてもらいました。



④摺り体験: 当館学芸員 齋藤
摺り体験では、本格的な道具を用意しました。
版木は勿論のこと、バレンに興味を持つ生徒も多く見受けられました。



⑤木版画の道具、資料の説明: 当館学芸員 上村
復刻浮世絵版木の資料と、木版画の道具を用意し、
当館学芸員が木版画について説明をしました。



⑥木版画の道具、資料の説明: 当館学芸員 上村
生徒の多くが刷毛をおろすために使う「鮫皮」など興味を持って
感触を確認していました。木版画に使う木材も数種類用意し、
その違いを体感してもらいました。

当日のタイムスケジュール

6:30	美術館から版木を持参し、出発	9:45	2時間目 授業開始
7:50	堺中学校到着。	10:45	3時間目 授業開始
8:00	美術室開錠	11:45	4時間目 授業開始
8:15	会場設営	12:35	4時間目終了 (昼休憩)
8:45	1時間目スタート	13:00	5時間目準備
8:55	摺り体験開始 18名が摺り体験。 残り18名は資料を鑑賞。	13:20	5時間目開始
9:10	交代	14:10	5時間目終了 片付け
9:25	体験終了。感想文を書く。	16:00	搬出
9:30	感想文の発表(2名、3名ほど)	17:00	美術館到着。
9:35	1時間目 授業終了 (10分休み) 次の授業の用意		